

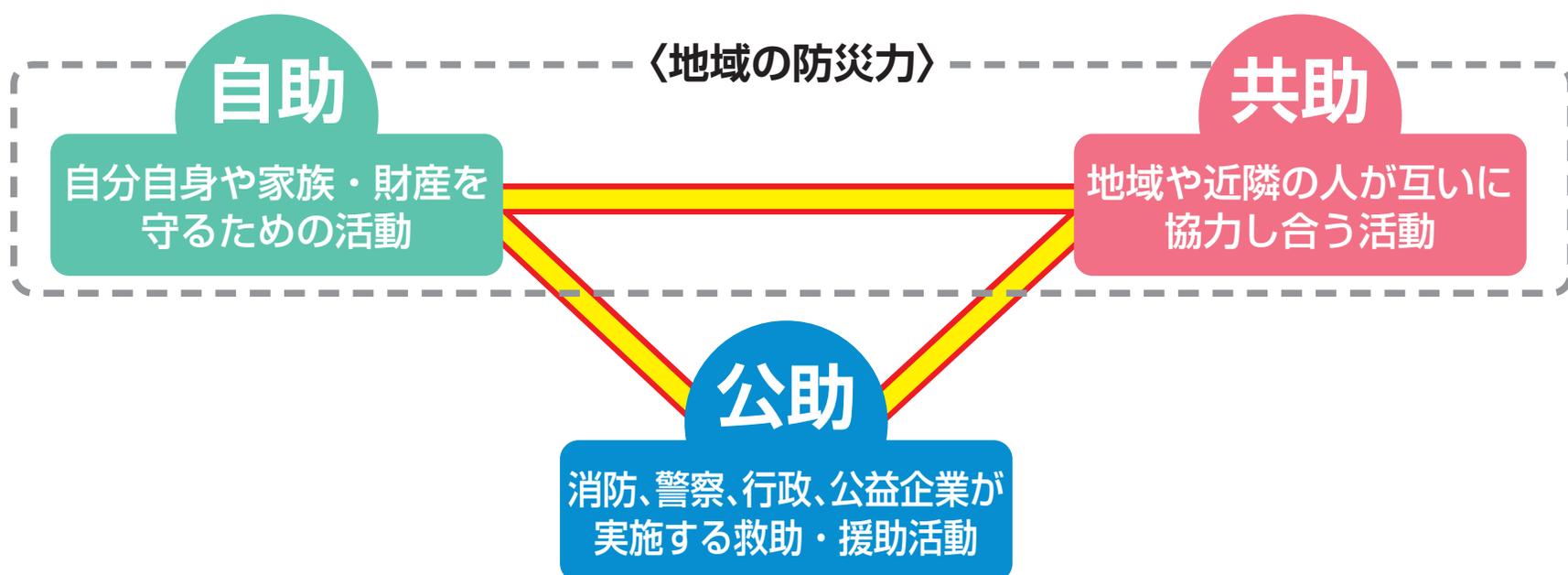
# 市民の皆様へ

## 「南島原市防災マップ」発行によせて

このたび市民の皆様には風水害や地震に関する情報を提供し、災害に対して事前の備えに役立てていただくことを目的に「南島原市 防災マップ」を作成いたしました。

近年、局地的な集中豪雨や土砂災害が全国各地で多発し災害が激甚化していますが、ゲリラ豪雨や土砂災害の発生はその予測が難しく、日頃の備えや緊急連絡体制の整備が重要になります。

本市では「災害に強いまちづくり」を主要な施策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めておりますが、ひとたび発生した災害から自らを、そして地域を守るためには、何よりも市民の皆様一人ひとりに防災意識を高めていただき、自主防災組織や消防団の活動を活発化させておく必要があります。



この「防災マップ」は、浸水想定区域、土砂災害危険箇所や避難所などを掲載しており、様々な災害に対する知識と備えをまとめておりますので、ご家族で災害対策について話し合ってください際にぜひともご活用いただくとともに、自主防災組織などの活動にも役立てていただきますようお願いいたします。

結びに、この「防災マップ」を通じて、市民の皆様と行政が連携・協力し「災害に強いまちづくり」の実現にむけて、全力をあげて取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

発行：南島原市 制作・著作：株式会社ゼンリン長崎営業所 作成：令和2年2月

「この地図は、南島原市長の承認を得て、同市販売の2,500分の1、10,000分の1の旧町管内図を使用し、調整したものである。」(承認番号30南企第732号)

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29情使、第444-1277号)」

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平29情使、第445-674号)」

# 防災マップの使い方と避難

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

## 防災マップの使い方

### まず、自宅の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



### 災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



### 次に、避難所の確認をしましょう。

各地区に優先的に開設する避難所を設定しています。避難所一覧および地図上には赤太文字で表記しています。

地図をみて確認しましょう。



### 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



## 目次

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| ● 防災マップの使い方と避難 ..... 1 | ● 防災対策&チェック ..... 10        |
| ● 避難情報 ..... 2         | ● 非常時持ち出し品の準備&チェック ..... 11 |
| ● 土砂災害 ..... 3         | ● 避難所一覧表 ..... 12~13        |
| ● 洪水 ..... 4           | ● 避難時の注意点 ..... 14          |
| ● 風水害・台風 ..... 5       | ● 災害時の緊急連絡について ..... 15     |
| ● 火災 ..... 6           | ● 津波ハザードマップ ..... 16~17     |
| ● 地震による災害 ..... 7      | ● 自主防災組織 ..... 18           |
| ● 雲仙岳の噴火警戒レベル ..... 8  | ● 家庭での備えされてますか? ..... 19    |
| ● 津波 ..... 9           | ● 特別警報をご存知ですか? ..... 20     |

# 避難情報

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするべきか？それぞれの状況に応じて避難できるよう、災害発生危険度と住民の方々が取るべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えします。

## <避難情報等>

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5	既に <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。	<b>災害発生情報</b> ※1 ※1 災害が実際に発生していることを把握した場合には、可能な範囲で発令 〔市町村が発令〕
警戒レベル 4 全員避難	<b>速やかに避難先へ避難</b> しましょう。 公的な避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	<b>避難勧告</b> ※2 <b>避難指示(緊急)</b> ※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令 〔市町村が発令〕
警戒レベル 3 高齢者等は避難	<b>避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者</b> は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	<b>避難準備・高齢者等避難開始</b> 〔市町村が発令〕
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確認</b> しましょう。	<b>洪水注意報</b> <b>大雨注意報等</b> 〔気象庁が発表〕
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	<b>早期注意情報</b> 〔気象庁が発表〕

～各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。～

## <防災気象情報>

【警戒レベル相当情報(例)】

### 警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報  
大雨特別警報 等

### 警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報  
土砂災害警戒情報 等

### 警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報  
洪水警報 等

(国土交通省、気象庁、都道府県が発表)

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。



## 大雨のとき

各河川ごとの水位基準が避難を要する水位に達したときや、県と気象庁が共同で土砂災害警戒情報を発表したときに避難準備・高齢者等避難開始、避難指示(緊急)を発令します。

### 大雨のときの避難行動

避難は災害から命を守るための行動です。大雨による災害から身を守る避難行動は、従来、避難勧告等の発令時に行う避難所への避難が一般的でしたが、今後は次の全ての行動を避難行動とします。

#### 屋外が安全で移動できる状態のとき

- 1 指定避難所への移動
- 2 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所へ避難  
(公園、親戚や友人の家等)
- 3 近隣の強固で高い建物等への移動

#### 屋外が危険な状態などのとき

- 4 建物内の安全な場所での待避  
(家屋内の垂直避難)  
やむをえず家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として水害対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い部屋への移動が有効です。

特に、河川氾濫の浸水地域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。

## 地震のとき

大きな地震に伴って、建物の倒壊の危険や火災発生のため、避難が必要なときや、土砂災害の危険が切迫しているとき、または危険物取扱施設の爆発など、二次災害が発生する恐れがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



## 火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



### その他

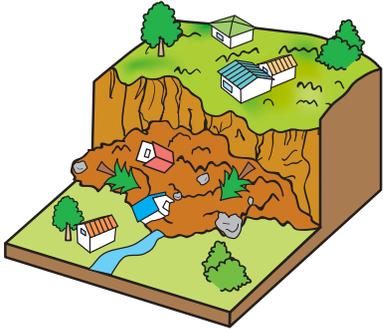
災害が発生するおそれがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

# 土砂災害

土砂災害の前触れに注意し、気がついた場合には速やかに避難しましょう！

## 土砂災害の種類

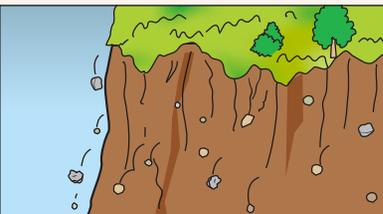
### 急傾斜地崩壊(がけ崩れ)



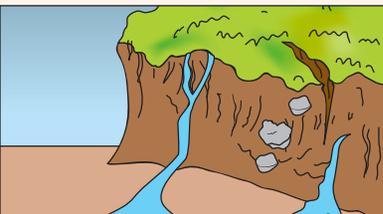
がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

#### 予兆現象

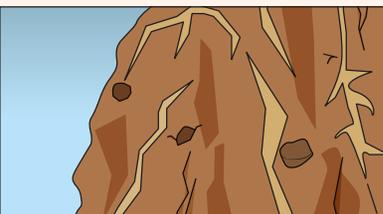
- がけから小石がぱらぱら落ちてくる



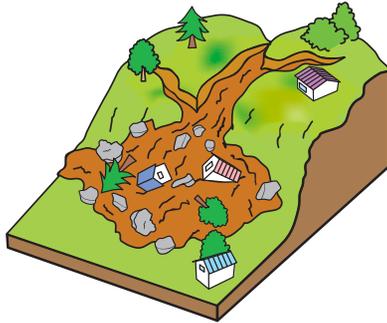
- がけから水が湧き出る



- がけに割れ目が見える



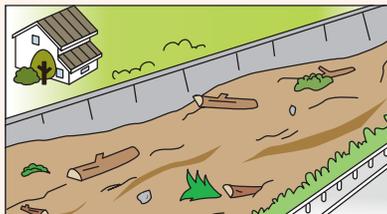
### 土石流



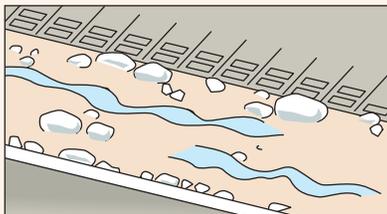
土石流は、谷筋で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合って流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

#### 予兆現象

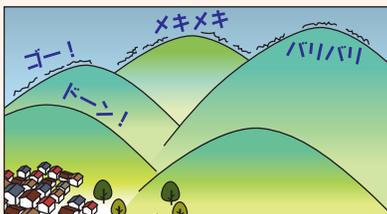
- 急に川の水がにごり流木が混ざる



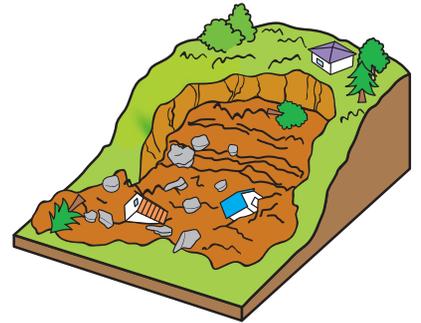
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 山鳴りがする



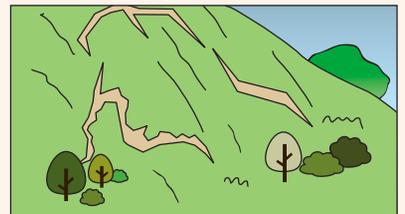
### 地すべり



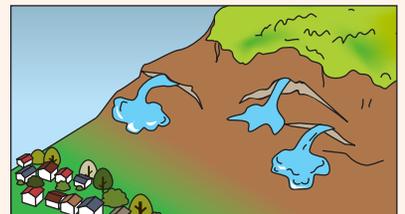
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、発生すると広い範囲で道路や建物に被害をもたらします。

#### 予兆現象

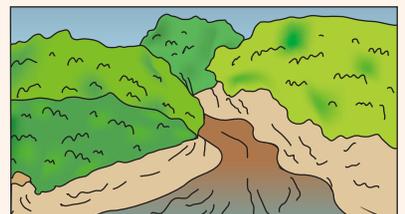
- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が噴き出す



- 沢や井戸の水がにごる



### 土石流危険渓流とは・・・

土石流の発生する恐れがある渓流で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある渓流をいいます。

### 急傾斜地崩壊危険箇所とは・・・

勾配30°以上、高さ5m以上の急傾斜地で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある箇所をいいます。

危険箇所

### 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域について

県では、土砂災害のおそれがある区域を「土砂災害警戒区域(イエローゾーン)」に、さらにそのなかでも建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域を「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」に指定しています。住まいがある土地が警戒区域に入っていないかハザードマップで確認しておき、家が当該区域にある場合は早めに避難するようにしてください。

- ・土砂災害警戒区域(イエローゾーン)…………… 土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。
- ・土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)…………… 土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められる区域。

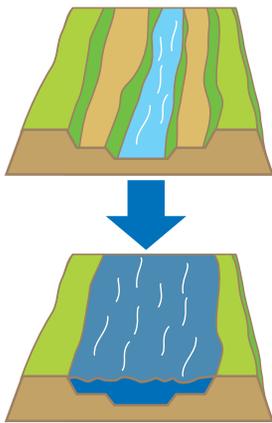
# 洪水

強い雨が広範囲に、長時間続くときに、洪水災害が発生する危険性が高まります。  
発生メカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

## 洪水の基礎知識

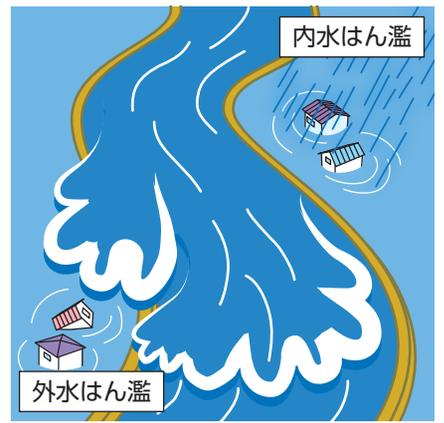
### 洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんがそれがふだんの姿です。ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



### はん濫

はん濫とは、雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水はん濫」といいます。川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままあふれることを「内水はん濫」といいます。



右記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう。

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき
- 水が激流となって堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

## 河川水位及び危険度レベル

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

レベル	水位	市や住民に求める行動
5	はん濫の発生	・市および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
4 (危険)	はん濫危険水位	・住民の避難完了
3 (警戒)	避難判断水位	・市は避難勧告等の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難勧告の発令
2 (注意)	はん濫注意水位	・市は避難準備情報発令(要介護者避難情報)を判断 ・住民ははん濫に関する情報に注意 ・水防団出動 ↓ 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令
1	水防団待機水位	・水防団待機

まずは、確実な情報が大事  
その次に迅速な対応



長崎県の河川の水位情報がご覧になれます。  
長崎県河川・砂防情報システム(河川水位・ダム情報・雨量・土砂災害情報)  
<http://www.kasen-sabo.pref.nagasaki.jp/nagasaki/main/index.php>

# 風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
 ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

### 大雨注意報・警報・特別警報の発表基準

#### 大雨注意報

1時間雨量が**40mm以上**

#### 大雨警報

1時間雨量が**60mm以上**

#### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表します。

#### 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm 以上~20mm 未満	20mm 以上~30mm 未満	30mm 以上~50mm 未満	50mm 以上~80mm 未満	80mm 以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

#### 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒 以上~15m/秒 未満	15m/秒 以上~20m/秒 未満	20m/秒 以上~25m/秒 未満	25m/秒 以上~
風に向かって歩きにくくなり、傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない状態になり、屋外の行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

#### 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。

台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上~800km 未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上~54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

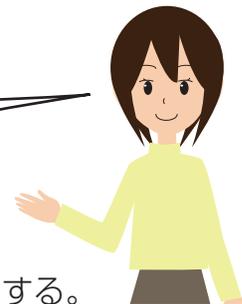
#### 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。

発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。

つねに気象情報には、  
注意しておきましょう!



- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。